

第4学年 社会科の実践

1. 単元名 「地域で受けつがれてきたもの」

2. 単元目標

○地域の伝統と文化について、人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに、調査活動や各種の具体的資料を通して必要な情報を調べまとめる技能を身につけるようにする。

○地域の伝統と文化の特色や相互の関連、意味を考える力、社会にみられる課題を把握してその解決に向けて社会へのかかわりを選択判断する力・考えたことや選択判断したことを表現する力を養う。

○地域の伝統と文化について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度やよりよい社会を考え、学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、思考や理解を通して地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養う。

3. 「ひびき合う三の丸の子どもたち」にせまるために

研究課題「子どもが解決したい問題を持ち、友だちとひびき合いながら学習する子どもの育成」
手だて・・・子どもの願いや思いを見とった単元構想と授業づくり
中学年ブロックテーマ「追究する力、仲間と支え合う自分」
・自分の問題をとことん追究する姿 ・仲間と協働して追究する姿

<聴く・話すについての指導>

「聴く」については、教師の話はある程度しっかり聴いているが、その反面友だちの発言への反応が薄い傾向があった。子どもたちと話し合いの場を設定しながら、クラスの『聴くマナー』を作った。とりわけ、『反応』ということ 키워ドにあげながら、友だちの話に自分なりに反応することを大切にしてきた。ただ声を出すことが反応ではなく、うなづくことやメモすること・つぶやくこと・分からないと首をかしげることなど、聴き方の多様性を認めつつ、良い反応を取り上げていくように指導してきた。以前の事態と比べれば成長はしてきているが、まだまだ指導の途中だと考えている。

「話す」については、発表に苦手意識がある子が多い。そこで、学習中全員が発表する場面を意図的につくったり、朝の会の中にみんなの前で話す時間を設けたりすることで、発表することへの自信が付いてきた子が多い。話すことへの自信を持ち、発言できるようになってきた子を取り上げて認めていく中で、一人また一人と不安傾向の強い子も含めて発表できるようになってきた。まだまだ、話し合いの段階になると一部の子に限定される部分もあるが、その中でもペアやグループなどの学習方法を効果的に活用しながら、話し合いの場面における話す力も高めていきたい。また、話すことへの意欲の高い子にも、区切って話すこと・結論を先に言うこと・例を挙げることなど、話し方のコツを助言している。

<これまでの関わり合い・ひびき合い>

総合的な学習の『小田原の魅力を伝えよう』で子どもたちのひびき合いの生まれる活動を実践してきた。テーマ決めや役割決め、振り返りなどをクラスでじっくり話し合いお互いの意見のずれを何度も取り上げてきた。また、国語科の『クラスみんなで決めるには』の学習から、学級目標であるめだまやきからとった『めだまやき会議』を定期的に行っている。そこでは、子どもたちから出たクラスの課題について話し合ってきた。例えば、「クラスをより楽しくするにはどうしたらいいのか？」や「水道水を流

しながら掃除をしてもいいか？」など、生活する中での考えのずれを取り上げて話し合いをしていく中で、必然的に子ども同士が関わり合い、ひびき合っていく姿が見られた。

このように問いを見だし、それを解決していく中で生まれた意見のずれを取り上げ、話し合っていくといった学習過程を社会、総合、国語、理科などを中心に行ってきた。これにより、子ども同士の関わり合う力は少しずつ身に付いてきている。図や板書、問い返しから子どもたちのずれを明確にすることによって、話し合いを通して自分の思いを強めたり、考えを深めたりするひびき合いの姿を目指したい。

<単元について>

本単元では、日本が誇る伝統工芸品の一つとして昭和 59 年 5 月 31 日に経済産業大臣（元通商産業大臣）指定の「伝統工芸品」に指定を受けた「小田原漆器」について取り上げる。小田原漆器の良さや歴史を理解することで、小田原漆器を受け継いできた人々の工夫や努力に気づくことをねらいとしている。また、学習の中で神奈川県 の 地 形 や 産 業 ・ 交 通 網 と 「 小 田 原 漆 器 」 と の 繋 が り に も 目 を 向 け る こ と で、土地の特色を産業に生かしていることにも気づかせていきたいと考えている。

<指導について>

国語の「日本のほこる和紙」から日本のほこる伝統工芸品は、どれも職人による丁寧な手作りによって作られ、現在まで受け継がれてることに触れる。そして、単元の導入では、小田原漆器とそうでないものを比べて、どれが本物の小田原漆器かを考える。正解の小田原漆器は他のものと比べ、値段が高いことを告げることから「どうしてそんなに高いのか？」「高いに決まってるじゃん。」と自信をもって話し始めるだろう。その中で自然と『どうやって作っているのか？』『どうして小田原で作られているのか？』『お椀の他にどんなものが作られているのか？』『職人さんに会いたいな。』といった疑問や願いが出てくるだろう。この疑問や願いを解決する中で、小田原漆器の職人の大川さんと出会っていく。さらに、職人との出会いを通じて、子どもたちが小田原漆器の魅力をより深く知っていく。そして、それとともに小田原漆器が抱えている課題である『後継者不足』についても気づいていく。小田原漆器だけでなく多くの伝統的な地場産業は、後継者不足が深刻な問題となっている。全盛期の小田原漆器の職人は 200 人～300 人だったが、現在はたった 2 人と減ってきている。この状況から子どもたちの解決したい問題が生み出されていくと考えている。

本時の子どもが解決したい問題は「どうすれば小田原漆器を守っていけるのか」である。大川さんから聞いた話や自分たちが調べた小田原漆器の現状をもとに、小田原漆器の職人が減っていること、小田原漆器全体の生産額が落ちていることなどの問題と子どもたちは出会っていく。子どもたちは直接お話を聞き、学んできた経験があるからこそ、『このままではまずい。』『何とかできないか。』と考えていくだろう。そのような子どもたちの思いをもとに、小田原漆器のことを考えることで、子どもたちが解決したい問題になっていくと考えている。

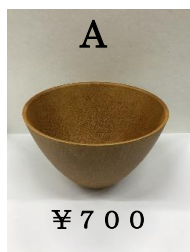
本時では、「小田原漆器を守っていくためのより良い方法を考えることを通して、小田原漆器の魅力や小田原漆器の職人の技術や願いに立ち返りながら、小田原漆器の未来について考えを深める姿」をひびき合いの姿としたい。どの方法もいいねという発表会で終わらないための手立てとして、より良い方法を検討していく中で、手作りの意義、職人の願いについて気づいていけるように子どもたちの考えのズレを焦点化する問い返しをしたり、資料を提示したりしていく。その際、意見が変わることだけでなく、意見がより強化されることや迷うような姿も認めていきたい。また、自分の考えを表現することが苦手な子や理解するのに時間がかかる子のために、ペアやグループでの交流も積極的に実施していく。

単 元 目 標	○地域の伝統と文化について、人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに、調査活動や各種の具体的資料を通して必要な情報を調べまとめる技能を身につけるようにする。 ○地域の伝統と文化の特色や相互の関連、意味を考える力、社会にみられる課題を把握してその解決に向けて社会へのかかわりを選択判断する力・考えたことや選択判断したことを表現する力を養う。 ○地域の伝統と文化について、主体的に学習の問題を解決しようとする態度やよりよい社会を考え、学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、思考や理解を通して地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚を養う。
------------------	---

◆国語「世界にほこる和紙」

- ・古くから受け継がれているんだね。
- ・伝統工芸って職人さんの手作りなんだ。
- ・箱根の寄木細工は聞いたことあるよ。
- ・小田原にも小田原漆器があるじゃん。

本物の小田原の伝統工芸品「小田原漆器」はどれ？ ①



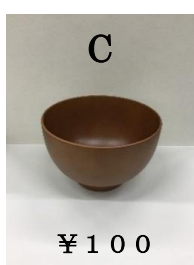
¥700

- ・木目のようなものがある。
- ・少しザラザラしてるよ。
- ・色が明るい。・橙色？
- ・給食でたまにでるお椀みたい！



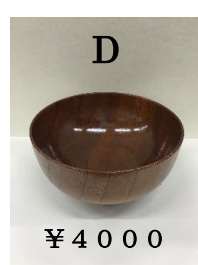
¥1000

- ・木目があるよ。
- ・手触りがつるつるしてる。
- ・匂いはしない。



¥100

- ・軽い。・木目が偽物っぽい。
- ・すべすべするよ。
- ・安そう。
- ・100均に売ってた。



¥4000

- ・木目がリアルで木っぽい。
- ・ざらざらしない？
- ・色が濃くてテカテカしてる。
- ・匂いはしないな。

・本物に触れる機会をつくる。

・小田原漆器について意欲的に調べることができる。(関)

どうして小田原漆器は値段が高いの？ ②

- ・手作りだからじゃない？
- ・機械も使っているでしょ。
- ・作るのが大変そう。
- ・その前に、小田原漆器のこと調べてみたいな。
- ・どんなものがある？
- ・どうして小田原で作られるようになったのかなあ？
- ・どうやって作るかも知りたいな。

どんなものがあるのか？ ③

- ・お椀やお盆、お弁当箱があるね。
- ・ネックレスも売っているんだ。
- ・通販で17600円のどんぶり売ってる！・高い！
- ・それほどいいものなんだよ。
- ・街かど博物館 大川木工所が近くにある！行きたい！

小田原漆器はどうやって作っているのか？ ④

- ・すごく手間がかかっているね。
- ・YouTubeで紹介されてるよ。
- ・動画を見たら、全部手作業だったよ。
- ・職人になるまですごく時間がかかりそう。
- ・本当に作っている様子を見てみたいな。

- ◆総合「小田原の魅力伝えよう。」②③
- ＜小田原の魅力ってなんだろう？＞
- ・小田原の伝統工芸をもっとみんなに知ってほしいな。
- ・社会で小田原漆器を学んでいるから箱根寄木細工はどう？
- ・小田原漆器の方が有名じゃないから伝えたい。
- ・観光客の人にインタビューをして知っているか聞いてみたい。

・小田原漆器の魅力に気づける資料『映像』『データ』を提示。

どうして小田原で作られるようになったのか？ ⑤

- ・漆器を作るための木がたくさんあったみたいだよ。
- ・東海道の宿場町で、人がたくさん来たみたいだよ。
- ・職人の人が集まりやすかったんだね。
- ・職人の人が技術を伝えてきたんだね。
- ・職人の大川さんって三の丸の近くに住んでるみたいだよ。
- ・職人の人(大川さん)の話を聞いてみたいな。

- ◆総合「小田原の魅力伝えよう。」④⑤
- ＜小田原駅でアンケートをしてみよう＞
- ・箱根寄木は有名だった。
- ・小田原漆器を知っている人が少ない。
- ・海外から来た観光客は小田原漆器のことを誰も知らなかった。
- ・日本人観光客も小田原漆器のことを誰も知らなかった。
- ・小田原市に住んでいる人も知らない人が多かった。
- ・小田原漆器のことをもっとみんなに知ってほしい。

・小田原漆器の魅力と現状を話して頂く。

小田原漆器の職人の人の話を聞いてみよう。⑥⑦

- ・すごい技術があるんだね。 ・一つ一つ時間をかけて手作りで丁寧に作っていたな。
- ・いろいろな種類の小田原漆器があったな。 ・どれもツヤと木目がきれいだった。
- ・やっぱ木から作られているから安全だね。・職人が減ってきているんだあ。

=====
・小田原漆器
の特徴や職人
の苦労や努力
について知る
ことができ
る。(知)=====

■伝統工芸士数の推移のグラフを提示

- ・小田原漆器だけでなく、他の伝統工芸品も減ってるんだあ。
- ・寄木細工も同じ状況なのか。

・このままじゃ小田原漆器がなくなってしまう！・どうにかして小田原漆器を守らないと！

=====
・寄木細工を守
っていく方法に
ついて考えるこ
とができる。
(思)=====

どうすれば、小田原漆器を守っていけるのか？ ⑧本時

子供向けの小田原漆器体験教室をする。	小田原漆器のことをネットや動画で伝える。	魅力的な新しい小田原漆器を作る。	小田原漆器を買ってもらう工夫をする。	その他
○子どもたちに知ってもらうことで、漆器の魅力がもっと広がると思う。 ○学校に来てもらって体験教室とかをやってもらえばいいかも。 △子どもに伝えても大人になるまで時間がかかるから効果がすぐに出ない。 △学校をまわってばかりいたら、仕事にならないよ。	○世界中の人に小田原漆器の魅力を伝えていくことができれば、魅力ある仕事だと伝わっていくんじゃない。 <u>○小田原漆器ユーチューバーが出てきたら、魅力を伝えられるよ。</u> △世界の人よりも日本国内の人に知ってもらい取り組みが大事。 <u>△映像よりも本物の方がすごさが伝わるんじゃない。</u> 。僕らも本物見た方が感動したよ。	○小田原漆器の伝統的なものに新しい工夫をすることで、注目してもらえるよ。→new デザイン ○若い人向けの小田原漆器の作品を考える。 →アクセサリーや小物 △新しいものよりも、今ある小田原漆器の魅力が伝われば、作ってみたい人は増えると思う。	○買う人が増えれば、創る人も働きやすくなると思う。 <u>○値段をもっと安くすればみんな買いやすいんじゃない。</u> △小田原漆器を買ってもらう工夫も大切だけど、職人が増えなければ、作ることが追いつかなくなる。 <u>△値段を下げたら、手作りの意味がないよ。</u>	○材料も調達しづらくなっているから、木を植林すると良い。 ○技術を伝える講習会を職人同士でやっていけばどうかな。 <u>○伝統的な職人の技を継承する学校を作ったらいい。</u> △木を植えてもすぐには効果が出ないよ。 △学校を作るだけの費用がないよ。

小田原漆器の魅力を学校の人たちや観光客にどうやったら伝えられるかな？⑨⑩+（総合）

本時について

- (1) 本時目標 どうすれば小田原漆器を守っていけるか話し合う活動を通して、小田原漆器の職人の技術や願いに立ち返りながら、小田原漆器の未来について考えを深めることができる。
- (2) 本時展開

主な学習活動	主な支援・留意点 ◆評価【観点】
小田原漆器を救おう！ ◆つなぐ工夫 ○職人のぼ集 (SNS・チラシ) ○見学 (小田原漆器をプレゼント) ○体験 ◆広げる工夫 ○チラシ ○新聞 ○インターネット ○Youtube ○CM ○アプリを作る ○発表 ○ラジオ ○人に伝える 良さ ◆売り方の工夫 ○新商品 (筆箱、おもちゃ) ○新しいデザイン (花びら、動物) 大川さんの 写真 ◆大川さんの想い ①良いものを作りたい。 ②みんなに使ってもらいたい。 美しい、木目、世界で一つだけ 大川さんの想いがこもっている 一品一品丁寧に、手作り 小田原漆器の良さ だれに向けて？ ・外国人観光客 ・日本人観光客 ・小田原市民 ・学生（若い人）	★前時に守っていくための方法についての発表は済ませておき、話し合いの場面から本時は入る。 ・できるだけ児童同士の話し合いを促し、板書に意見の違いを分かりやすく位置付ける。 ・クラス全体での話し合いだけでなく、ペアやグループでの話し合いの時間を取り、全体で発言できない児童にも発言の機会を与える。 ・それぞれの解決方法への賛成や賛同・反対意見を言う中で、児童の意見のずれを取り上げる。 ★焦点化のポイント ・小田原漆器を救うためにはどの方法が良いか？ ・小田原漆器のことを知ってもらえば問題は解決するのか？ ・大川さんの話「①良いものを作りたい。②みんなに使ってもらいたい。」この言葉から考えると、どの方法が良いのか？ ・どんなことを大切にして小田原漆器を守っていくのか？ ◆小田原漆器の職人の技術や願いに立ち返りながら、小田原漆器の未来について考えを深めることができる。【思考・判断・表現】

7. 実践を終えて

- (1) 子どもとどのように単元をつくってきたか（本時まで）

単元の導入では、小田原漆器とそうでないものを比べ、値段が違うことを告げた。すると『どうしてそんなに高いの！？』『小田原漆器って初めて聞いた！』『使ってみたい！』と子どもたちの興味・関心を引き出すことができた。『どうやって作っているのか？』『どうして小田原で作られているのか？』『お椀の他にどんなものが作られているのか？』といった疑問をインターネットや本を使い調べ学習をした。しかし、小田原漆器を扱っている記事はそう多くなかった。『寄木細工は有名なのにどうして？』とより意欲が高まる子もいたが、『寄木細工の方が有名だしきれいだから好き！』と小田原漆器への興味が薄れる子もいた。そんな中、小田原漆器伝統工芸士の大川肇さんのホームページを見つけた子がいた。『学校から徒歩15分の場所に木工所があるよ！』『行きたい！取材したい！』と再び子どもたちの意欲が高まった。大川さんとの出会いを通じて、子どもたちは小田原漆器の魅力をより深く知った。そして、小田原漆器が抱えている課題『後継者不足』に直面した。子どもたちの『小田原の伝統工芸である小田原漆器を守りたい。』『大川さんが守ってきたものを受け継いでいきたい。』といった想いから『小田原漆器を救おう！』という課題が生まれた。単元を通して子どもたちにとって身近な素材と地域の特色をいかして学習できたと思う。

また、ノート指導において、毎回振り返りを書いたことにより、話し合い前後での変容をよく見とることができたと思う。

- (2) 成果と課題

成果

- ・意見をつなげて発言できていた。仲間の考えを全否定せず、自分の考えを伝えていた。
- ・地域素材（小田原漆器）をいかし、他教科と関連付けされた単元構想であった。
- ・板書が仲間分けされていて、見やすかった。

課題

- ・導入の段階で、大川さんの想いや困り感をしっかりとらえる必要があった。
- ・「救おう」の問い返しが必要だった。（知ってもらおう・買ってもらおう・職人さんを集める等）
- ・焦点化がされていない部分があり、学習問題に対する切実さが高まりきれていなかった。